



カブトガニはどれくらい生きるの

カブトガニは、けっこう長生き

卵からかえったカブトガニは、何回もだっ皮しては大きくなり、13~14才でおとなになります。おとなになったカブトガニは、メスの体の後ろに、オスがぴったり重なって、全体で一ぴきの体のようになり、いつもくっついた形でくらしします。メスは、オスより体がひとまわり大きいです。

カブトガニは、夏の3か月以外は、どろの中でねむっていますが、ねているときもオスとメスはくっついたままです。

カブトガニのじゅ命は、およそ25年ぐらいといわれています。

生きた化石といわれるカブトガニ

カブトガニは、3億年ぐらい前に地球上に現れてから、ほとんど形が変わらないまま今も生きているため、生きた化石といわれています。いちばん近い仲間は、およそ5億年前ごろ栄えて、絶めつしてしまつた三葉虫、今、生きているものなら、クモなどです。

において、えさを探す

カブトガニの体は、かたいこうらでおおわれていて、口やきゅう覚器、えら、こう門などは、みな腹側についています。えさは、ゴカイや、小さい二枚貝、海そうなどで、きゅう覚器を使って、において、えさを探します。

(監修・安部 義孝)

